

会長メッセージ

「年頭まづ自ら意気を新たにすべし」

総本部 会長 地藏 哲徳



新年あけましておめでとうございます。
会員の皆さまには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年が皆さまにとって佳い年でありませうお祈りいたします。
昨年は年号が「令和」に変わり、新天皇のご即位に関連する諸行事が一年間かけて厳かに進められ、我が国の悠久の歴史の重みと、新天皇皇后の国民に寄り添う麗しいお姿に、改めて日本人としての幸せを感じさせられる一年でありました。

本年は、4年に一度の閏年(うるしどし)に当りますが、夏には東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになっております。日本人選手の活躍もさることながら、昨年のラグビーワールドカップで盛り上がった以上に世界中から大勢の人々が来日され、日本の美しい風土に感動し、日本人本来のおもてなし精神のやさしさに触れて貰いたいものであります。

さて、2020年は、干支では庚子(こうし)の歳であります。

中国の古典によれば草木の成長になぞらえて、庚は、「成長を終えた草木が次の世代を残すために花や種子を準備する状態」、子は、「かたい種に押し込められていた生命が、新たに芽生えて、いろいろな方向に育ち始める状態」を表していると言われています。私たちに当てはめると、庚は完成した個人・組織から不要な価値観をそぎ落とし、新しい環境へ対応する体制を整える年、子は個人は自分の軸となる価値観をしっかりと持ち、組織は新たな局面に対応できる人材の育成・活用に取り組む年、といったように、過去の成果から引き継ぐべ

きものを維持しつつ、新たな環境や局面に向けて体制を整えていくべしと教えています。つまりこれを本会に当てはめると、昨年己亥の年に長年の念願であった本部会館リニューアルが出来上がり、併せて創立85周年大会も盛会裏に終えることが出来、一つのエポックが終わり、文字通り本年は庚子(こうし)の年に相応しく、新しい成長、新しい芽生えに向かっていくべき歳を迎えたと言えます。私達執行部としましても、就任以来「視座を変えて」のスローガンのもと、諸事業を進めてきましたが、更に関西吟詩86年の歴史の重みをしっかり受け止め、良き伝統は大切に継ぎながらも、進化のために必要な変化には今まで以上に勇気をもって挑戦し、次の芽吹きを求めて、新たな糸を紡いでいく決意であります。

特に、再三申し上げてきましたが、日本全体の少子高齢化の波は急速に進展しており、その中で生成発展を続けていくためにどうあるべきか、定年問題・会員制度見直しについて特別委員会を編成し熱心な議論を重ねてまいりました。一定の方向が見えてきましたので、昨年11月以来元老相談役の諸先生に、そして12月には、全国11地区に出向き、地区連合会・各会の先生方や代議員にご説明申し上げ率直な意見交換を重ねて参りました。6月の定時総会には正式に細則規程類の改正をご提案申し上げる予定でございます。

昭和の碩学と呼ばれ歴代総理の指南役も勤めた、安岡正篤先生の教えの中に「年頭自警」の五訓がありますが、その中で最初に出てくる言葉が、「年頭まづ自ら意気を新たにすべし」であります。暦が替わって新年になったなら、自分自身からまずすつきりとしたいもの、旧年の古びて垢じみ、薄汚れた、自身の気持ちをござつぱりしたものに出直すこと、そこが大事だと教えています。服装外観ではありませんが、大事なものは、「意気」年を経て弛んだり、ばらばらになっている部分部分を、びんと引き締めて、きびきびした活気の中に自分自身を置くことだそうです。

新年には初詣に参りますが、今年は何年以上に気を張り詰めてお詣りしたものであります。会員皆さま、今年一年どうぞよろしくお願い致します。